

小学生ら51人 卒業発表

未来創生塾が今年度修了式

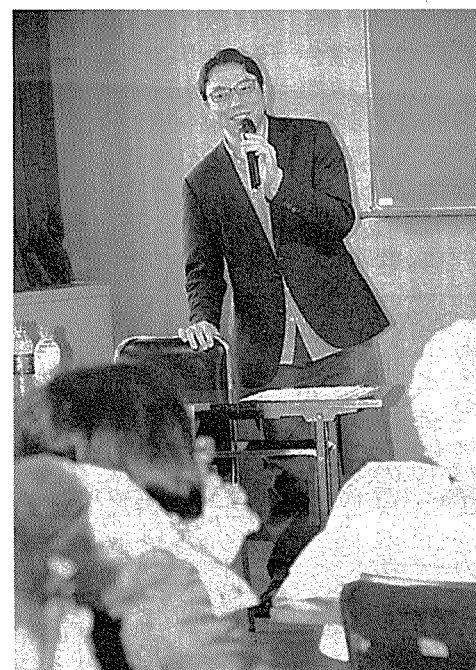
桐生市の産官学民が連携し教育プログラムを実施する「未来創生塾」(宝田恭之塾長)の2018年度成果発表会と修了式が23日、桐生市市民文化会館で行われた。塾生たちは1年間の活動を通して得た知識や発見、思いなどを発表した。

未来創生塾は群馬大学理学工学部や桐生商工会議所、桐生市、市民らが連携し新しい社会をリードする感性豊かな人材育成を目指し、文化や歴史、自然環境

や芸術などのさまざまな体験型プログラムに取り組んでいる。今年度で6年目を迎えた。この日は小学1年生から高校1年生までの51人の塾生が自作した資料やパワーポイントなど使用し発表。

足尾銅山と植樹について発表を行った中島唯斗さん(広沢小3年)は栃木県日光市の足尾銅山を訪れ、煙害で枯れた山に植樹をした体験について「苗木を植えて緑を取り戻すことで、良い空気や生き物が増える」とし「植樹した1本1本が緑を増やすと思うと、これからも続けたい」と話した。

会場にはプログラムを通して塾生たちが製作した陶芸やピンホール写真などの作品も展示された。



ビブリオバトルの魅力を話す 瀬部さん(中央公民館で)

小2も高齢者も「ビブバトル」体験

市立図書館主催

お気に入りの本を紹介し合い、読みたいと思わせられるかを競う書評合戦ゲーム「ビブリオバトル」の体験講座が桐生市立中央公民館で開かれ、小学2年生から高齢者まで約20人が本を通じた知的なコミュニケーションゲームを楽しんだ。

市立図書館主催の体験講座。参加者は3人ずつの班に分かれ、1人5分で1冊紹介。絵本や小説、歴史書など、思い思いの本を全員が発表した後、「どの本が一番読みたく

なったか」を投票し、「チャンプ本」を決めるゲームに挑戦した。ビブリオバトル普及委員会関東地区代表の瀬部貴行さんが講師を務め、バトルの公式ルールや楽しみ方を解説。「いつでもどこでも誰とでも気軽に楽しめるのがビブリオバトルの最大の魅力」などと話した。

あすから「忍者の武器」展

笠懸の街かど歴史資料室で

手裏剣など

みどりの市笠懸町阿左美にある街かど歴史資料室で第12回企画展として24日から、手裏剣やまきびしなどが並ぶ「忍者の隠し武器展」が開かれる。

同資料室は赤石幸夫さんが2011年春、趣味で集めた資料を公開する場として自宅に開設したもの。普段は文献資料が中心だが、今回は忍者の武器にスポットを当てた。

館内には折りたたみできるホタンの付いた十字手裏剣や15疋を越す棒手裏剣、六方形、くぎ抜き形、万字形など、さまざまな形の手裏剣をはじめ、天然ひしや鉄ひし、えりの裏に隠した縄切り刀や枕刀を仕込んだきせる、鉄製の万力鎖など23点を展示。さらに、明治維新後は薬の行商に転じたとされる「甲賀



関連の紙資料も並ぶ。

展示は4月7日まで(午前10時〜午後3時、2日は休館)。入場料は大人100円。場所は国道50号の阿左美交差点の北側、東邦薬品歴史資料室で)

桐生みどりの営業所近く。問い合わせは赤石さん(電話76・2642)へ。

十字手裏剣や棒手裏剣も並ぶ会場(街かど歴史資料室で)

23日本社調べ

出生

な し

III おくやみ III

藍原トリ子さん 86歳

(あいはら・とりこ)

桐生市相生町三丁目。22日病氣のため死去。通夜25日午後

明 暗 だより

市場や農場見学など体験学習で学んだ知識を発表した(桐生市市民文化会館で)